

2学期が始まりました。高校生活も半分が過ぎ、2学期には修学旅行という大きな行事を控えています。その一方で、君たちが受験する「新しい大学入試」に向けて、この2学期から実際に動き出さなければなりません。新しい大学入試では、「英検」や「GTEC」といった英語の民間資格・検定試験の成績を大学入試に利用できるようになるのですが、そのために必要な手続きをしなければならないのです。具体的に説明していきたいと思います。

君たちが受験する「令和3年度(2021年度)の大学入試」に利用できる資格・検定試験の成績は、来年(令和2年)の4月～12月に受験した試験の成績のうち最大2回までとなるのですが、その成績は大学入試センターが運営する「大学入試英語成績提供システム」というシステムを通して大学との間でやり取りされます。そのシステムに成績を登録するために必要な「共通ID」の発行申込を、今年(令和2年)の11月1日～14日の間にしなければならないのです。10月のLHRで君たち自身が発行申込書を書き、上記の期間に学校から一括で発送するという形になります。申込書は学校から配布するので取り寄せる必要はありませんし、IDの申込については無料となっています。来年の1月頃に共通IDが通知されるので、それを試験申込時に記入して申込を行い、来年の4月～12月に資格・検定試験を受験するという流れになります。

ところで、実際に「① どの資格・検定試験」を「② いつ頃」受験し、「③ どのくらいの点数をとれば良いのか」について、現段階での考え方を示しておきます。

まず、「① どの資格・検定試験」を受験するのかについてですが、高校生でも取り組みやすい内容・形式であることや、受験料・受験場のことを考慮すると、ほとんどの人は「GTEC(大学入学共通テスト版)」か「英検 2020 1day S-CBT」(新方式です。新方式は名称が少々ややこしいので注意してください)になると思います。GTECは昨年にも受験してもらいましたし、今年(令和2年)の12月7日にも受験するので、試験の内容・形式はそれらで体験できるはずですが、英検は令和2年3月までにあと1回受験するチャンスがあるので、来年英検での受験を考える人は体験しておいた方が良いでしょう。ただし、4技能の試験が1日で行われることと、スピーキングなどの形式が変わることは留意しておいてください(スピーキングは現在は試験官との対面式ですが、上記の新方式はヘッドセットを装着し解答を録音する吹込み式に変わります)。

次に、「② いつ頃」受験するのかについてですが、まず気をつけなければいけないのは、受験する時期によってその受験成績を大学入試に使える時期が下表のように決まっているということです。

受験期間	対応するGTECの受験日(予定)	成績提供開始時期
A おおむね4～7月	令和2年6月14日(日)	令和2年9月以降
B おおむね7～9月	令和2年7月19日(日)	令和2年11月以降
C おおむね8～12月	令和2年10月4日(日)or令和2年11月1日(日)	令和3年2月以降

\*英検については、以下のようなスケジュールが発表されていますが、それぞれの検定がどの受験期間に対応するかはまだ発表されていません。また、試験日については「原則、土日・祝日の日中、または平日夜に実施予定」と現段階では書かれているだけで、正式な試験日は本申込時に決まるそうです(英検の申込については後述)。

検定回	試験日程	予約申込日程	本申込日程
第1回検定	令和2年4月～7月のいずれか	令和元年 9/18～10/7	令和2年 2/9～2/25
第2回検定	令和2年8月～11月のいずれか	令和2年 1/15～1/27	令和2年 6/20～7/6

よって、9月から始まる総合型選抜や11月から始まる学校推薦型選抜に資格・検定試験の成績が必要な場合は、受験期間AまたはBに受験しておかなければならないということになります。ただし、それらの選抜に資格・検定試験の成績が必要かどうかは大学ごとに異なります。一般選抜に関しては、どの受験期間に受験しても大丈夫だと思われます。

以上のことから、まず1回目は「6月」に受験し、どの受験方式にも対応できるようにしておくのが良いと思います。ただし、「ある基準以上の点数」(後述)を取らなければ出願資格などの条件を満たせない場合があります。

2回目は「11月」に受験するのが良いと思います。なぜなら、時期の遅い試験の方が学力をより身につけた状態で受験できるからです。なお、6月の受験に必要な条件を満たせば2回目は受験する必要はありませんし、条件を満たせたとしてもさらに上の成績を目指す場合は2回目も受験する必要があります。なお、3回以上受験することもできますが、そのうちの2回の成績を自分で選ぶというようなことはできませんので注意してください(試験日の早い順に2回までの成績が使われます)。

次に、「③ どのくらいの点数をとれば良いのか」についてですが、まず「CEFR(セファール)」と呼ばれる指標を知っておく必要があります。この指標は、異なる検定試験の成績を同じ基準で見るための「ものさし」と考えれば良いと思います。右のような対照表があり、これを見れば各検定試験の成績がどのCEFRのレベルに対応するかが分かります。CEFRレベルはA1～C2の6段階があり、C2が一番上となります。

例えば英検なら、準2級の試験で1700点以上とれればA2ということになりますが、準2級の試験ではB1以上は取得できません。準2級合格は1728点以上ですので、「CEFRのA2」≒「準2級合格」と覚えておくと良いと思います。

さて、国公立大学は8月1日時点でほとんどの大学が検定試験活用方針を公表していますが、どのように活用するかは「出願資格」・「加点」・「その他」に分類することができます。

「出願資格」は、指定されたCEFRレベルを満たさなければ、出願すらできないということを意味します。例えば滋賀県立大は、「A1以上」を出願資格としています。他大学の基準を見ると、「A2」を取得できればほぼすべての国公立大学に出願可能な状況になっています(ごくごく一部「B1以上」の学部もあります)。

「加点」は、指定されたCEFRレベルを取得していれば、点数がプラスされるということを意味しています(取得していなくても出願はできます)。加点の仕方は大学によって異なり、例えば静岡大は、「A2」を取得していれば「+16点」となっています。

「その他」には、「出願資格+加点」・「活用しない」・「みなし満点」などが含まれます。例えば京都工芸繊維大は「活用しない」と発表しています。広島大は「B2以上」を取得していれば、共通テストの英語を満点にするという「みなし満点」の方式を採用すると発表しています。

一方、私立大学は8月1日時点で6割ほどの大学が活用方針を公表していますが、その多くは「共通テスト利用方式(現在のセンター試験利用方式に相当)で活用する」といった書き方で、具体的な活用方法や配点などを示していないのが現状です。また、すでに入試で検定試験を活用している大学も結構あるので、それを踏襲する大学も多いようです。

いずれにせよ大学によって活用の仕方が違うので、大学のHPや文部科学省が開設した「大学入試英語ポータルサイト」などを見て自分自身で確認をしておいてください(すでに発表されている方針が変わる可能性もあります)。

以上、大変長々と書いてきましたが、まとめると次のようになります。

「1回目は、6月に英検またはGTECを受験し、CEFRのA2レベル以上を目標にする」

「2回目は、11月に英検またはGTECを受験し、CEFRのA2レベル以上を目標にする」

万が一、検定試験で目標の点数が取れなくても、大学受験ができなくなるわけではありません。国公立大学はほとんどの大学で検定試験を利用しますが、上でも書いたように「加点」方式なら出願はできますし、私立大学は今のところ4割くらいの利用だそうです。ただ、「CEFRのA2」≒「準2級合格」≒「高校2年程度」なので、あなどってははいけません。決して高いハードルではありません。選択肢を広げるためにも、「CEFRのA2」を取得しておくに越したことはありません。

なお、英検を受験するには予約申込をしなければならないのですが、来年の6月に受験するには今年の9月に予約をしないといけません(表面の表を参照)。さらに来年の2月に本申込が必要で、その時点で具体的な受験日時と会場が示されるという仕組みになっています。受験会場の候補としては、彦根・近江八幡・草津・大津が予定されているようです。詳細は英検HP上の「英検 2020 1day S-CBTサイト」を見てください。9月18日になればこのサイトから申込ができますし、試験の体験版も公開されています。

最後に。以前の「まいしん」にも書きましたが、「高校の授業」=「検定試験の対策」です。米原高校ではスピーキングテストやリスニングコンテストなどの取り組みもあります。「特別な何か」に頼るのではなく、「普通の」を大切に、来年の大学入試に備えていって欲しいと思います。

CEFR	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT
C2	各級CEFR 算出範囲 (3299)	各試験CEFR 算出範囲 (1400)
C1	3299   2600   2630   1級	1400   1350
B2	2599   2300   2304   準1級   2304	1349   1190   (1280)
B1	2299   1950   1980   2級   1980	1189   960   (1080)
A2	1949   1700   1728   準2級   1728	959   690   (840)
A1	1699   1400   1456   3級   1400	689   270   (270)

は各級合格スコア

「英語4技能試験情報サイト」より引用  
英検とGTECの部分だけを取り出しています

この通信は、必ず保護者の方にも渡して、読んでもらってください。